

# 『ゼロからはじめる音響学』第1刷正誤表

この度は、標記書籍をお買い求めいただき誠にありがとうございました。  
標記書籍に誤りがありました。訂正し、深くお詫び申し上げます。

ページ数	行数	誤	正
93	図 6.11 (a)	VOTがプラスの無声破裂音	VOTがプラスの破裂音
93	図 6.11 (b)	VOTが0の無声破裂音	VOTが0の破裂音
93	図 6.11 (c)	VOTがマイナスの有声破裂音	VOTがマイナスの破裂音
93	1行目	VOTは一般に0またはプラスの値になります。一方、有声破裂音は、破裂に先立ち声帯が振動を始めるため、VOTは一般にマイナスの値になります。	VOTは一般にプラスの値になります。一方、有声破裂音は、それより早く声帯が振動を始めるため、VOTは無声破裂音よりも小さい値になります。
95	下から2行目	Wの音声記号に[w]があてられているため、	Wの音の音声記号に[w]があてられているため、
138	図 8.11	<p>(a) 振幅 vs 時間 [s] のグラフ。縦軸は振幅（-2から1）、横軸は時間 [s]（0から1）。δは小さい値。信号は主に正の振幅を示す。</p> <p>(b) 振幅 vs 時間 [s] のグラフ。縦軸は振幅（-4から3）、横軸は時間 [s]（0から1）。δは大きい値。信号は主に負の振幅を示す。</p>	<p>(a) 振幅 vs 時間 [s] のグラフ。縦軸は振幅（-2から1）、横軸は時間 [s]（0から1）。δは小さい値。信号は主に正の振幅を示す。</p> <p>(b) 振幅 vs 時間 [s] のグラフ。縦軸は振幅（-4から3）、横軸は時間 [s]（0から1）。δは大きい値。信号は主に負の振幅を示す。</p>
157	6行目	このように、刺激量が小さいときは解像度を細かくし、刺激量が大きいときは解像度を粗くすると、大小さまざまな刺激量をカバーしつつ、センサーのサイズを相対的に小さくすることができます。	このように、刺激量が小さいときは解像度を細かくし、刺激量が大きいときは解像度を粗くすると、ひとつのセンサーで大小さまざまな刺激量をカバーすることができます。